

まあ！すてきな若者施設 今秋も3カ国を継続視察

山科青少年活動センター チーフユースワーカー 横江美佐子

法政大学社会学部の平塚真樹教授を代表に諸外国の若者政策をテーマにした教育学、社会学など幅広い研究調査を進めているグループが、昨年が続いて、今秋も3カ国を訪問します。これには、青少年の自立支援をめざす公益財団法人 京都市ユースサービス協会のユースワーカーも参加し、各国の青少年施策の視察、現地のユースワーカーらと交流、意見交換します。ここでは、昨年に訪問したフィンランド、ヘルシンキの女性施設「ガールズハウス」の印象をお話します。

「こんな施設で働きたい！」

ロビーには、ゆったりソファが配置され、ガラスのショーケースが並び、その横には小さなアンティークなレジスター。まるでおしゃれなカフェの一角を思わせるスペース。その奥にブルーやグリーンで統一された6畳ほどの小部屋が3つ、ゆったりと友だちとおしゃべりを楽しめそうな雰囲気。さらにその奥には、ムーミンのキャラクターのイラストが壁に掛けられた大きめの部屋。さすがデザイナーの国フィンランド！と声を出してしまっただほどの空間を前に「本当に青少年施設？」。ヘルシンキの街中にある若い女性



性を対象にした施設「ガールズハウス」。ロビーでは、時折、カフェがオープン。小部屋は相談ルーム、リラクセスして相談できる配慮がなされています。そして、ふわふわラグが敷かれた大きめの部屋の片隅には、ベビーベッドがあります。そう、子育て中の10代ママのための部屋。その他にも、キッチンやクラフト・手芸ができる工房、ダンススタジオなど、日本の青少年施設におなじみの設備が整っていました。



持ち込まれる多様な課題

この誰もがリラックスできそうな空間に少女たちのさまざまな問題が持ち込まれるという。施設職員は「男の子はアクティヴする。その行動をみて抱えている問題をつかみやすいけど、女の子は追い込まれるまで話さない」「家族の形態が変わり、父親不在の家も増えている。従来の女性観が失われ、今までにない問題が起こっている」と、女性を対象にした青少年施設の特徴を説明した。その他にも移民の受け入れを背景にした問題への対応で「宗教によっては、女性は家にいることがよしとされ、結婚前の恋愛は、少女たちの命を危険にさらすこともある」。親とちがう文化の中で育つ少女たちへのサポートは欠かせない。また、学校になじめない10代の妊娠や出産など持ち込まれる課題は多様だ。

ユースワーカーが燃えつきないために

ユースワーカーが疲弊しないために、ここではさまざまな取り組みが行われていた。一つ目は、チームで出来事をしていねいに語りあうこと、必要に応じて専門家からスーパーバイズを受けたり、支援者のためのセラピーの場が準備されている。ワーカーの1人は「大切なことは、少女たちの人生と、自分の人生をわけること」そういいながら、手で身体を払うしぐさをした。「仕事での出来事はここに置いて帰る。ドアを出たら気持ち切り替えられるようにしているの。」

「ガールズハウス」に入入りする少女たちは、ユースワーカーとの関わりを通して信頼できる大人と出会う。そして、仲間との出会いを通して、しんどさを自ら乗り越える経験を積み重ねていく。ユースワーカーは、そのプロセスの伴走者なのだ。

「ガールズハウス」の取り組みは、少女たちの10年、20年後を考えながら展開されている。だから簡単にそこでの成果を数字で測ることはできない。ヘルシンキでは「ガールズハウス」の運営が一定の成果をあげていることを受けて、男の子たちを対象にしたユースセンター「ボーイズハウス」が2011年にオープンしている。次の展開に結びつくこと、そこにどんな工夫があるのか。この秋9月に再度、海外研修に参加します。この取組を身近な若者の未来に向けて、豊かな発展につなげたいと思います。



日程	行程	泊
9月3日(火)	デンマーク・コペンハーゲン着 打ち合わせ	コペンハーゲンホテル泊
4日(水)	コペンハーゲン(行政、公的機関、現地研究者と情報交換)	同上泊
5日(木)	午後フン島へ移動(フリースクール、教員養成学校訪問)	フン島フリースクールの宿舎泊
6日(金)	同上	同上泊
7日(土)	コペンハーゲンからイギリス・リーズへ(ユースセンター視察)	リーズホテル泊
8日(日)	自由行動	同上泊
9日(月)	リーズのユースワーク	同上泊
10日(火)	リーズからマンチェスターへ(マンチェスターのユースワーク見学)	マンチェスター泊
11日(水)	イギリスからフィンランドへ	ヘルシンキホテル泊
12日(木)	フィンランドのユースワークの実践評価他	同上泊
13日(金)	同上	同上泊
14日(土)	帰路	機内泊
15日(日)	日本着	

[2013 年度視察日程]